

ビートトップの飼料利用

◇…ビート・トップとは、収穫するさい根から切り離された葉の部分のことで、栄養価値はカブの葉と同じくらいで、乳牛はもちろん、和牛、メン羊、ヤギ、豚、鶏などすべての家畜に与えることができる。しかしビート・トップのなかには葉の部分にシュウ(蔞)酸が、根から切り離した首の部分にベタインというアルカロイドの一種が含まれているので、多量に長い間与えると下痢したり、消化障害を起こすので注意しなければならない。やれば乳量がふえるので、やりすぎになりがちだし、収穫時には多量にとれるので、一度にどっとやりがちになる。1日当たりの給与量は、乳牛や和牛の成牛で15～20キロ、生後6ヵ月以上の子牛で5～10キロ、メン羊、ヤギで0.8～1キロ、豚1～2キロ、鶏30グラムで初めのうちは少量与え、次第に量をふやすようにする。

またシュウ酸を中和するために炭酸石灰(炭カルやコロイカル)を平常使っているほかにトップの0.2～0.3%を余分に与える。

◇…ビート・トップを生そのまま与えることができるのは10～20日間で、それ以上はサイレージにして貯蔵しなければならない。乾燥してもよいが、天日乾燥は不可能で火力乾燥もむずかしいので、サイロに詰めるのが安全だ。このごろでは、コンクリートサイロを持っている農家でも、ほとんどほかの飼料を詰め終わっ

ているので、ビニールを利用したトレンチサイロ(ざんごうサイロ)を使うのが簡単。詰める方法は、ほかの飼料と同じだが、詰める前に水分が75%になるまで乾燥するか、生で詰めるさいは、切りワラや干し草を5、6%の割合で詰める。首の部分をそのまま入れると空気が残るので、1.2センチに細かく切断し、十分に踏み込む。1ヵ月すれば良質のサイレージができ上がる。サイレージの与え方は、生で与える場合に準じてやればよい。

(農業改良課)